



日本見学旅行に対する感謝の手紙

尊敬する合璧の倉董事長とみなさんへ：

みなさん、こんにちは。また新しい一日がはじまります。今、日本見学旅行の五日間を振り返って、わたしはとても感動しています。おそらく本当の「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」を実感したからだと思います。このたびは仕入れ業者のわたしを董事長といっしょに日本見学に招待してくれたこと、本当に感謝しています。今回の見学旅行を通して董事長と親しくさせてもらったばかりか、董事長の人生哲学を学ぶこともできました。わたしの人生の中で最も意義のある見学だったといえます。本当に有難うございました。



五日間という短い時間でしたが、今回は合璧の董事長やみなさんとともに和やかな雰囲気の中で過ごせたこと、そして異国でみなさんの思いやりを受けたこと、わたしは今後一生忘れたいと思います。

以前、わたしは合璧の董事長について聞いたことがあります。とても聡明で、いつも従業員のことを思いやり、週末を利用して台湾からやって来ては従業員といっしょに仕事したり生活したり、さらにはいろいろなことを教えてたり……。しかし、本当にそんなことが可能なのか、少し疑問を抱いていました。董事長のようなお金も地位もある人が作業員たちといっしょにいる姿が想像できなかったからです。ところが、今回の五日間の見学旅行とその前に行った48日の準備を通してわかりました。董事長の素晴らしい、そして合璧の社風と従業員の精神が。わたしは深く感動しました。以前聞いていたことはすべて本当だったからです。

日本に行く前48日間で行った準備には心から感じました。たとえば、董事長はこの間に全部で三度上海に来て日本の文化について細かく指導してくれました。パスポートはどうやって安全に保管するのか、温泉の入る方、浴衣の着方、トイレの使い方など本当に細かなところまで詳しく教えてくれました。台湾にいる時も団長の張經理に電話していろいろ指示をしました。また、毎週月水金に行った学習会では張經理がきちんとコピーした資料を準備してくれましたが、その仕事の細かさにも感じました。事前準備の中では百の簡単な日本語と日本語の歌三曲を覚え

ました。日本語について全く基礎のないわたしにとって、これはたいへんな作業でした。しかし、合璧の日本営業部門のみなさんが我慢強く教えてくれました。彼らについて言葉で言うだけでは、わたしが覚えられないと知ると、ローマ字の発音表記を書いてくれました。これはとても助かりました。合璧のみなさんの事前準備には本当に感動しました。これがあったからこそ、わたしの緊張も少しずつほぐれていったのだと思います。

さて、日本に着いて三日目のことです。持病の腎結石が発症しました。痛くて顔色が真っ青になるほどでしたが、それが理由でみんなの予定を乱してはいけないと思い、言い出せませんでした。しかし、隠し通すことはできませんでした。董事長と陳工場長はそのことを知ると、少しも怒った素振りも見せず、「大丈夫か？」と気遣ってくれました。ある者は薬を買って来てくれました。わたしの病状を気に掛けてくれたり、わたしに付き添うために観光を中止して面倒を見てくれたりした者もいました。このときほどみんなの思いやりを感じたことはありません。言葉が出て来ず、ただ感動の涙が頬を伝うだけでした。

日本に着いたその時から董事長はわたしたちを多くの学ぶ価値のあるところへ連れて行ってくださいました。わたしたちはそこで教わり、悟り、感動し、感謝しました。本当に収穫の多い見学旅行でした。

五日間の日本見学旅行はもう終わってしまいましたが、合璧の董事長の気遣いと思いやり、従業員の方々の熱意はわたしの中に永遠に残るでしょう。合璧という一流企業のサプライヤーとして目の前の仕事に全力で取り組みたいと思います。今回学んだことは必ず会社に持ち帰って従業員に伝えます。合璧の皆さんが与えてくれた感動や感謝を福承電子の従業員の方々の発展にも役立てたいと思います。最後にもう一度、董事長、陳工場長、張經理、山口賢一様をはじめ合璧のみなさんに心からお礼を申し上げます。

福承電子總經理 黃 斌 (湖南邵阳)

会食で感じたこと

その日は董事長が現場の作業員と会食をする日でした。わたしは自分の組を率いるようになって、以前のようなあまり行きたくないという気持ちはなくなり、それが楽しみとして受け入れられるようになりました。この日会食に参加したのは14名。二班に分かれてホテルへ行きました。わたしは董事長といっしょに後ろの車に乗りました。わたしたちの車がホテルに着いたとき、先に着いた同僚たちはみんな入口脇に立って董事長を迎えました。すると董事長は素早く車から降りて、迎えてくれた同僚一人一人に「寒くないか」とか「おなか空いてないか」と声を掛けました。そしてその中の一人の同僚の手を取ったあと、みんなをレストランに連れて行きました。その姿はまるで孫に対する祖父のようで、とても親しみを感じました。そして、その瞬間、みんなの緊張が解けていきました。



みんなが席に着くと、董事長はわたしたちにテーブルマナーを教えてくださいました。テーブルマナーについては、この日のためにみんな練習していたので、董事長の教えがよくわかりました。食事のとき、董事長は隣の同僚に料理を取り分けてあげました。みんなもそれに習ってお互いに料理を取り分け合いました。その様子はまるで温かい家族のようでした。

食事をしながら、わたしたちはいろいろな会話をしましたが、そのとき金美玲さんという同僚の話にみんなは涙を流しました。彼女は生まれる前にお爺ちゃんがもう亡くなっていたので、お爺ちゃんに可愛がられたことがありません。だから合璧に入ったあと、董事長のことをお爺ちゃんのように思っていたそうです。彼女は涙を流しながら、董事長の腕をつかんでいました。「わたしには今、お爺ちゃんがいます。董事長はわたしのお爺ちゃんです」。そして董事長は彼女の肩を叩きながら「もう心配いらないよ。わたしがお爺ちゃんだ。わたしはみんなのお爺ちゃんだ」といいました。ほんの短い言葉ですが、これはなかなか言えることではないと思います。

こうして和やかに時は過ぎ、もうすぐお開きという時、董事長がわたしに聞きました。「もしラインの作業員が仕事で言うことを聞かなかつたらどうする？」。これに対してわたしは「自分の子供のように接します」と答えました。すると、董事長は何度も「ありがとう」といいました。これ聞いて、わたしは董事長の従業員に対する愛の深さを感じました。

気がつくともうすぐ八時になろうとしていました。みんな明日も仕事があるので、予定通り会社に戻りました。一企業の董事長が現場の作業員たちと会食することは他の会社では聞いたことがありません。それができるのは董事長が従業員のことを家族だと思っているからです。こんな素晴らしい董事長がいる会社で働いているのです。わたしは仕事にもっと頑張らなければならないと思います。

感動、尊敬 — 日本見学の感想

感動とは何か。人に感動を与えるとは何か。常に人に感動を与えるとは何か。

尊敬とは何か。人から尊敬を受けるとは何か。常に人から尊敬を受けるとは何か。

一、成功する人は準備する人
成功の伝道師はよく何も知らない若者にこういいます。「どんな事をするにもまずはしっかりと準備しなさい」。人はよくこういいます。「普通人は準備が一つ。できる人は準備が二つ。知恵のある者は多くの準備をする」。わたしの周りにもそれを物語る人がいます。それは尊敬すべき董事長です。今回の日本見学旅行の成功も董事長の下でみんなしっかりと準備したからこそです。



一ヵ月半前の日本語の学習に日本語の歌三曲の練習、各人いくつかの小さなプレゼントの選択にスーツケースの名前標示、ハンカチとティッシュの準備からゴミの美化……。こうした細かなことをしっかりと準備してから日本見学に参加したことでスケジュールが順調に進んだだけでなく、いたるところで感動の神話を創り出し、みんなの尊敬を得ました。また、持って行った小さなプレゼントは温泉での感動的な贈り物となってお返しを受けました。成功する人は董事長のように準備をする人だけだと思います。

二、細かなところが勝敗を分ける
こんな民謡を聞いたことがあります。「釘が一本なくなって蹄鉄が壊れた。蹄鉄が壊れて馬が一頭やられた。馬が一頭やられて一つの戦争に負けた。一つの戦争に負けて一つの帝国が滅んだ」。これは民謡の歌詞にすぎませんが、それでも現実社会で細かなことに気をつけなければと思ってしまう。今回の見学旅行では日本の細かな文化に触れて大きな感動を覚え



た。以前董事長の話も聞いても深く実感することはできませんでしたが、今回の見学旅行でいろいろな体験をしてそれがわかりました。小さな例では公園にあった手作りの囲いでした。その形や方向、大きさは一つずつ全部違っていて、回りの風景とともに合っていました。こうした細かなところが配

慮が日本ではいたるところで見られました。こうしたことが日本を明治維新以後急速に発展させたのだと思います。

三、思いやりの心
日本はどこにいても思いやりがあふれていて、それは感嘆するほどです。暑い日の冷たいジュース、疲れて旅館に着いた時に準備してあるお茶とお菓子、きちんと敷かれた布団、曇り空の日にも手渡された雨傘。それらはわたしが今回感じた日本の文化で、そこには深い感動を感じました。いつでもどこでも、みんな他の人のことを考えています。これこそ董事長がわたしたちに学んでほしかったことだと思います。



四、団体精神
今回の見学で董事長はいつもわたしたちにこうして注意しました。「わたしたちは団体だから、勝手な行動はしてはいけない。団体で行動しなければなりません」。わたしは日本語をずっと勉強してきましたが、今回日

本に行ってきたことを深く実感しました。日本人は昔から団結力と「集団意識」の強い民族ですが、今回の見学では、わたしも董事長の指揮の下こうした団体の訓練を受けたような気がしています。空港での手続き、見学時の態度、食事のマナー、座禅の感動……。決して日本人にも劣らない団結をしたと思います。



五、自然な成功
董事長はよく日本の諺「石の上にも三年」を用いてわたしを鼓舞します。今回の見学では宝田電産さんの岡田常務のお話を聞く機会がありました。毎日数時間しか寝ずに三年間も頑張ったこと。病氣にも負けなかったこと。金融危機の時の不安と頑張った。会社の危機に勇気をもって立ち向かった強い気持ち。聞いていてとても感動しました。そして、ふと董事長の若い頃の苦勞を思い出しました。強い意志で頑張って何十年も努力した結果、最後は成功し、多くの人から尊敬を集める企業家、知恵者となったのです。それに引き換え時々楽なことに流される自分。本当に反省させられました。石の上にも三年。このことを肝に銘じて自分の職務を頑張らなければならないと思いはした。努力して学び、積極的に改善し、自分を高め、よい習慣を回りの人にも与えられる人になりたいと思いました。

六、感謝と思返し
「滴水之恩、当以湧泉相報（一滴の水の恩をあふれる泉で返す）」という言葉があります。それがあって、董事長が子供の頃おばさんか爺さんかからもらったことに対してその後何十年も経ってから経済援助をした話。まさにこれに当たりま



す。さて、そんな董事長の教えと愛を受け取ったわたしたちはどうすればいいのでしょうか。それは簡単です。しっかりと合璧人となって合璧のこころを愛すればいいのです。ところで今回の日本での見学で、「感謝と思返し」についてもう一つの解釈を学びました。それは山口顧問の言った「もったいない」という考え方です。これは「ものを無駄にするな」という意味ですが、もっと深い意義があります。それは目の前の物を見たとき、それを与えてくれた人にも感謝するということです。たとえば食料ならそれを作った人たちのことを思って、物を粗末にせず感謝していただくのです。ちょうど製造工程でいわれる「前工程は神様、後工程はお客様」の考えと同じです。こうした考えがあれば、不良率もゼロにすることも可能で、前工程の人たちの仕事を無駄にすることもなくなります。この考えでまじめに働けば、会社の損失も大きく減らすことができると思います。

今回の見学は董事長の下で多くの感動を覚え、尊敬を受けました。本当に感慨深い限りです。最後にもう一度、このような素晴らしい機会を与えてくれた董事長にお礼を述べるとともに、この感動と尊敬を広めていきたいと思っています。